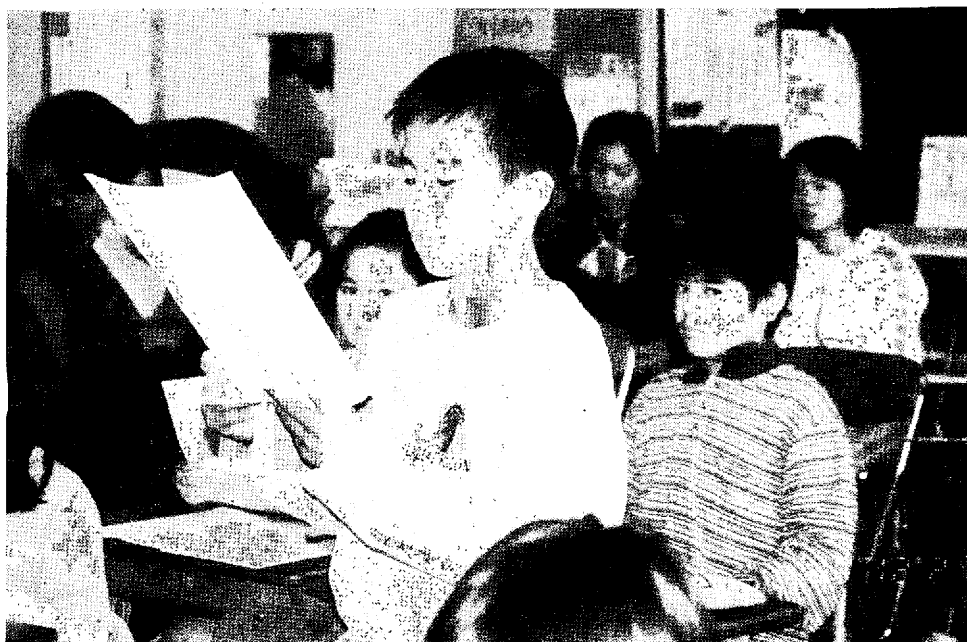


心豊かな子が育つ道徳学習の展開の工夫

福祉教育を取り入れた総合単元的な学習を通して



浦添市立仲西小学校
教諭 大村 朝彦

目 次

I テーマ設定理由	1
II 研究目標	2
III 研究の仮説	2
1 基本仮説	
2 作業仮説	
IV 研究構想図	2
V 研究内容	3
1 総合单元的な道德学習とは	
(1) 総合单元的な道德学習の意義	
(2) 総合单元的な道德学習の四つの類型	
(3) 総合单元的な道德学習の良さ	
2 指導過程の構成	
(1) 指導過程の基本	
(2) 効果的な導入	
(3) 時間をかけた展開	
(4) 余韻ある終末	
3 福祉教育について	
(1) 福祉教育とは	
(2) 発達段階に応じた福祉教育のあり方	
(3) 福祉教育と道德教育の関連	
VI 授業実践	8
1 総合単元のねらいと構想についての考え方	
2 総合单元的な道德学習の単元構想	
3 総合単元構想図	
4 検証授業	
5 授業の考察	
VII 研究の成果と課題	18
終わりに	18
《主な引用・参考文献》	

心豊かな子が育つ道徳学習の展開の工夫

福祉教育をとり入れた総合単元的な学習を通して

浦添市立仲西小学校教諭 大村朝彦

【要約】

本研究では、心豊かによりよい生き方を追求できる児童の育成をめざし、道徳の学習と福祉教育を関連的に単元構成し、そこで学習したことを道徳の学習に取り入れて授業展開を試みるというものである。これらの学習を進めていく中で「福祉実践への素地づくり」とともに道徳性の高まりにつながったのではないかと考える。

キーワード

□総合単元的な道徳学習

□福祉教育

□思いやり

I テーマ設定の理由

現代社会は、様々な技術や経済の発達により、物質的な豊かさを生み、情報化・国際化、価値観の多様化など、社会の各方面に大きな変化をもたらしている。また、核家族化や少子化、地域の形骸化等により人と人との触れ合う場と機会が減少し、人間的なつながりが希薄になる中で、様々な問題が表れてきている。

このような社会背景を踏まえて、新学習指導要領ではこれからの教育の在り方として、「生きる力」の育成が強調されている。中央教育審議会によると、「生きる力」とは「変化の激しい社会において、いかなる場面でも他人と協調しつつ、自立的に社会生活が送れるようになるために必要な人間性」と、定義づけている。この豊かな人間性を育てるのが

心の教育であり、人格の基盤としての道徳性を養うことを目標とする道徳教育である、と捉える。

その道徳教育の中心である道徳学習の時間を振り返ってみると、子ども達は、自分なりの思いや考えを持ち、互いに意見を出し合うことはできる。しかし、遊びや他の活動のかかわりにおいては、「相手を思いやる」ということが未だ十分でない面がしばしば見られる。そこには、道徳の時間の

ねらいとする価値と、関連する他教科のねらいとする価値との、関連を持った指導が不十分だったのではなかろうか、あるいは、道徳的価値の一方的な押しつけになっていたのではないか、という反省に立たされる。

そこで、学習指導要領を改めてみると、「道徳の時間においては各教科、特別活動、総合的な学習の時間と密接な関係を図りながら、道徳的実践力を育成する」とあり、そのことから総合単元的な指導が有効ではないかと考える。

一方、福祉教育についてみてみると、「世の中にはいろいろな人が住んでいて、共に生きている。そして共に支え合い、共に学んでいくことが大切である。」と言うことに気づかせ、「すべての人が社会の大切な存在として尊ばれ、偏見や差別のない人権に根ざす共生と平等、相互の思いやりの心を育て合うことの大切さを指導する。」と、うたっている。

福祉教育をすすめていくと道徳教育につながり、道徳教育を進めていくと福祉教育に関連してゆく面が多々あり、両者は特に相通するものがあると考えた。その中でも特に、「思いやりの心」「いたわりの心」「助け合いの心」を培ってゆくことが子ども達にとって、あるいは、これからの社会において強く望まれる課題と捉え、道徳の学習と福祉教育との関連を図り、総合単元的に授業を構成することにした。

それと同時に、児童の内面に訴えることのできる授業展開の工夫をすること。その二つがしっかりと機能することにより、確実な道徳的実践力が身につき、心豊かな子が育つのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

心豊かな児童を育成するために、道徳学習と福祉教育を総合単元的に構成し、授業展開の工夫を図る。

III 研究仮説

1. 基本仮説

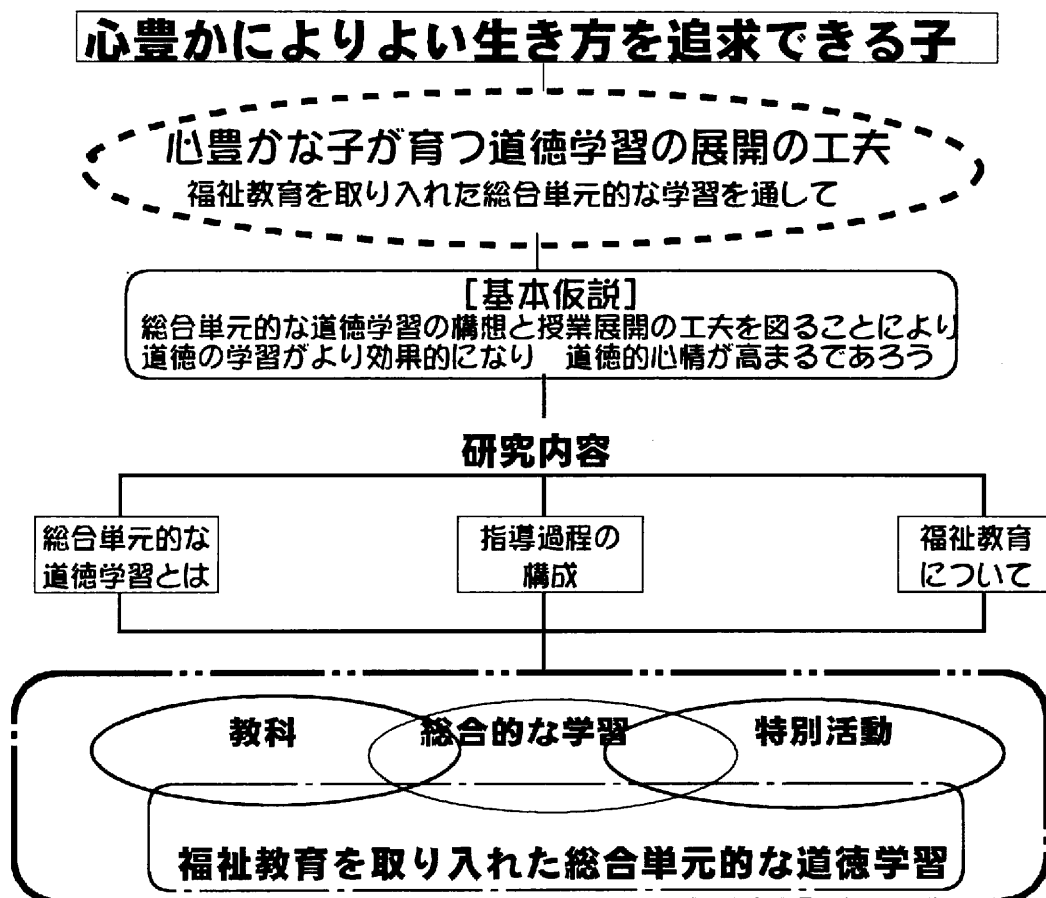
・総合単元的な授業構成と授業展開の工夫を図ることにより、道徳の学習がより効果的になり道徳的心情の高まりが見られ、心豊かな子が育つであろう。

2. 作業仮説

・道徳の学習と福祉教育の関連を図った総合単元的な学習を行うことにより、道徳の時間の学習がいっそう効果的なものになるであろう。

・福祉教育における体験活動を道徳の学習に取り入れるなど、授業展開の工夫を図ることにより、道徳的心情が高まるであろう。

IV 研究構想図



V 文献による理論研究

1. 総合単元的な道徳学習とは

(1) 総合単元的な道徳学習の意義

道徳の時間の目標は「各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充・深化・統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的实践力を育成するものとする。」と、示している。

道徳の時間は、学校における道徳教育の要となる重要な時間だが、道徳の時間のみで道徳教育のすべてが行われるのではない。学校の教育活動全体を通じてそれぞれの教育活動の特質に応じてなされる道徳教育とそれらを補充・深化・統合する道徳の時間とがうまく機能し合うことによって、その効果が期待できる。したがって、道徳教育の目標がより効果的に達成されるには、道徳の時間において各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的・発展的に指導を行う必要がある。

そこで、総合単元的な道徳学習とは各教科、特別活動及び総合的な学習など、全教育活動における道徳教育と、それらを補充・深化・統合する道徳の時間の指導を有機的に関連させた一つのまとまりとして計画し、指導していく道徳教育であると言える。

具体的には、道徳の時間の前後にその主題に関わる各教科・特活及び総合的な学習などを位置づけ、それら一連の過程を道徳学習と考えて計画していくものである。

(2) 総合単元的な道徳学習の単元構成について、四つの類型

①<同一価値総合型>

道徳の時間だけによって総合単元を構成する類型の一つであり、一つの価値項目を

年間三～五回繰り返して指導する型である。(例) 中学年2-(3)「友情」について、ア、仲良く助け合う イ、忠告し合う ウ、磨き合う エ、信頼し合うなど、友情のあり方を発展的に捉えて主題を配列する。

②<複数価値総合型>

道徳の時間だけによって構成する類型であり、総合主題に迫る複数の価値項目を配置し、関連づけて展開するもの。

(例) 立派な6年生として、どのような考えを持ってどのように行動すればよいか、ということ。「真の最高学年になるためには」という、総合主題を設定し、第一次主題「より良いきまり」4-(2)、第二次主題「真心を持って」2-(1)、第三次主題「責任を果たす」4-(1)、第四次主題「本当の親切」2-(2)の四つの主題を学年の初めに連続して設定し、展開するもの。

③<教科等総合型>

各教科・特別活動及び総合的な学習と道徳の学習を関連づけて総合単元的に構成するのがこの類型である。

(例) 国語時間に「尾瀬を守った人」の伝記を学び、その生き方に尊敬の共感を深めながら道徳の時間の資料に描かれた主人公の生き方に学び、さらに自分の生き方を考えていくという仕組みである。また、道徳の時間に捉えた価値の意義を特別活動における活動の中で確かめるということもできよう。関連づけの形はいろいろある。

④<体験総合型>

勤労生産活動・自然体験活動・ボランティア活動などの体験活動と道徳の時間の指導を直接結んで道徳的实践力の育成をさらに深めようとしたものである。この体験総合型における道徳の時間の資料は先行す

る体験活動に取材した自作資料とする。

(3) 総合単元的な学習の良さ

①各教科における道德教育の充実

- ・教師が教科における目標や内容に含まれている道德教育にかかわる側面を今まで以上に分析、把握できる。
- ・児童が、教科の学習を通して道德の内容に深くふれることができる。

②道德の時間の学習を深めることができる

- ・児童が課題意識を連続させ、主体的な問いを持つことができる。
- ・事前に他教科において学習が進められているので、資料の登場人物の気持ちや状況を確かな根拠を基に追求できる。

③道德的実践を体験することができる

- ・道德教育は知識の教育ではないが、道德的価値に対する子どもの知識がなければ道德的判断はできないし、理解がなければ道德的心情の高まりもないと考えます。また、道德的実践意欲や態度が高まっても具体的に行動に移すための方法や技術が分からないため戸惑い、行動に移せなかったりすることもあると思われます。そこで総合単元の構成において、効

果的な段階に体験活動を位置づけることは必要であり、子どもの知識理解を深め、道德的実践意欲を高めることにも大きくつながると考えます。

2. 指導過程の構成

(1) 指導過程の基本

指導過程の構成にあたってはまず、ねらいとする道德的価値を決め、そのねらいを達成するためにふさわしい資料を選定し、どのように指導すれば効果的であるかを具体的に示すことが大切である。そのために一人一人の子どもの実態をできるだけ的確に把握すると共に、ねらい達成のためどのような授業展開にすることが適切であるか、さらにどのような発問をどのような順序で組み立てたらよいか等を具体的に検討することが大切である。(※次にあげるのはあくまでも「基本形」であり、いつまでもこだわる必要はなく、まず、型にはまった授業をして、一応それを身につけたなら、できるだけマンネリ化しないよう創意工夫する、という考えの基参考にしていきたいと考える。)

	指 導 過 程	内容と指導上の留意点
導 入	1, ねらいとする価値への方向づけ ・問題に気づかせる ・共通理解を図り焦点化する。 ・資料への興味関心を高める。 ※主題に対する児童の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、学級全体の意識を学習に向かって動機づける。 ◎本時のねらいである道德的価値に気づかせ	1, 日々の生徒指導上で直接・間接的に指導した事例や生活経験の想起、意識調査等からねらいとする価値に関する自分自身の実態について気づかせる。 「自己決定」 「他との関わり」

	<p>学習の方向づけを短時間にする発問。 ・端的に、ねらいとする価値へ方向付ける発問をする。 ・児童の生活体験を振り返らせる問い。</p>	
<p>展開の 前段</p>	<p>2, 資料を与え話し合わせる。 ①ねらう価値への焦点化をする ②具体的に登場人物の行為・考え方・心情をおかれている条件の下で見つめさせ、資料の活用によって、ねらう価値を追求させる。</p> <p>※「資料の基本的な構成」</p> <p>③ねらう価値の把握をする。 3, 価値を主体的に自覚する。 ・前段で把握した道徳的価値を自分の過去および、現在の具体的な行為に結びつけて、価値を自主的に自覚させる。</p>	<p>2, ここでは、児童が最も集中的に主題に取り組む段階である。 ・価値を捉える。 ・多様な考えに気づく。 ・多様な考えについて話し合う ・出された考え方を相互に話し合わせる。 ・ねらう価値の把握をさせる等の活動を通して「自己決定」の場を発展的に設定する。</p> <p>中心発問の工夫 ※ねらいとする価値に気づかせ、それを感じ取らせ考えさせる。 多様な考え方の把握 ※主人公に託して自分の持つ考えや、気持ちを出させる。 意図的指名 ※多様な考えの類型化を図りながら、お互い認め合い、他と関わりながら「自己決定」をする。</p> <p>補助発問の工夫 話し合いの補助 ※高い価値観に気づく ※主人公の考え方や感じ方を通して自己の価値観を捉える。</p> <p>3, 中心資料を離れ、自分自身の過去および現在、または将来の生活において、ねらいとする価値がどのように実現されるかを追求していく「自己決定」の場として設定する。</p>
<p>展開の 後段</p>	<p>4, 実践意欲を高める。 ・ねらいとする道徳的価値の整理とまとめ ・教師の説話 ・児童作文 ・その他</p>	<p>4, 自分のこれからの生き方に対する発問 (※よりよい生き方をしたいこうとする意欲を駆り立てる場) ・児童に振り返らせ、そこで把握された道徳的価値についての整理・まとめを行い、実践への意欲付けを図る。</p>
<p>終末</p>		

(2) 効果的な導入

導入では、これから何について（ねらいとする価値）学習するのかに気づかせることが大切である。このことは自分とのかかわりのあることであると思うような導入にすることである。

- ・こどもの実態をよくとらえ、一人一人が自分にも関係があると気づく。
- ・ねらいにかかわりのある生活体験を語らせ、そのときの気持ちなどを簡単に語らせる。
- ・子どもがねらいとする価値について興味関心をもつような事例を取り上げる。
- ・短い時間で、ねらいとする価値に気づかせることのほか、歌を歌ったり、いろいろなしぐさをして学習の雰囲気を作ることや、時代背景を簡単に説明して資料へ導入することがあっても良い。
- ・導入は展開につながる事が大切である。導入で扱ったことが展開で生きるように工夫する。

(3) 時間をかけた展開

時間をかけて自分の問題であると真剣に考えることが大切である。展開の前段では資料でねらいとする価値を追求させ、それを自分のものとして把握させる。

- ・取り上げた資料によって、ねらいとしている道徳的価値に気づかせ、それを工夫した発問によって追求し、納得させ、望ましい価値として把握させることが大切である。十分に時間をかけて話し合わせるようにすることである。
- ・ねらいとする価値の必要性を知らせると共に、それを実現することの難しさ、人間としての弱さ、醜さにも目を向けさせ、なお、あるべき姿を指向させることである
- ・ねらいを達成するためには、資料の研究を十分にし、どこでどのような発問を

すればよいかについて検討する。

展開の後段では、資料から離れて今までの生活の中で、ねらいとする価値について自分はどうかであったかを振り返らせる（価値の主体的自覚）。

(4) 余韻ある終末

終末は学習したことについてまとめる段階で、まとめ方は次のような方法がある。

- ・教師の説話（ねらいに関わる話を要領よくまとめ、話して聞かせる）
- ・ノートに書かせる。（書く視点を示して書かせる）
- ・話し合い（教師の、心に残った児童の発言をもう一度取り上げて話し合わせたり、資料で扱わなかったが、ねらいに関わりのある別の話を話し合わせる等）
- ・作文・格言・録音など（ねらいに関わりのある児童の作文、親や、地域の人の声や映像を流したり、格言、ことわざ、などで）

画一的なまとめではなく、短い時間で子どもの心に残るような終末でありたい。

ねらいとする価値を実現することは大切であるが、それがなかなか実現できない人間の弱さにもふれ、余韻の残る終末にしたものである。

3. 福祉教育について

(1) 福祉教育とは

特定の人に対する救済的な事業であるとか、福祉への住民参加は国家責任を代償するものであるとか、そのようなイメージは影を潜めた感がある。実際に、国際機関や欧米諸国においては、福祉の訳語である *Welfare* = (よりよい暮らし) にかかわって積極的な人権尊重に立脚して、自己実現を保障する意味合いを持つ *Wellbeing* = (よりよく生きる) という用語が多用されるようになってきているようである。

今日、「競争」から「共生」への道を求める動きが活発となり、この考え方は社会福祉の新しい理念の一つとして登場してきたノーマライゼーション〔正常化〕とも基盤を一つとするもので、「相手との結合や関係」を重視する価値観に立っている。人が「よりよく生きる」と言うことは、自己実現を自己中心的に追求するのではないということ、真の自己実現は他者の自己実現を考えるという相互関係のなかで成熟するものである。

生涯教育の観点から、高齢者や障害者をいたわり、優しい気持ちを持ちながら、それぞれの立場を理解していく人間を育成するためには、幼少時より発達段階に応じた豊かな心の育成が協調されている。そのためには日常生活において、多様な人との出会いとふれ合い体験の機会が必要とされ、その方法として、ボランティア活動など体験活動の重要性が指摘されている。

(2) 発達段階に応じた福祉教育の在り方

低学年

具体的な思考をする段階にあり、日常の経験や活動の中で、具体的な場面を通して、友達と仲良く助け合おうとする態度や、親や教師などを尊敬する心を膨らませて、感性豊かに「福祉の心の芽生え」を育てることが大切である。

中学年

この時期の児童は、自分の行動と他人の行動とを相互に見るようになり、自分の行為の善悪についても反省することができるようになりつつある。そこで、集団での共同活動の仕方や、仲間関係のあり方について指導し、道徳的に好ましい具体的な体験を用意することが望ましく、低学年で培われた「福祉の心の芽生え」の上に人間尊重の精神を相互扶助や、連帯感にまで高め、集団として「福祉実践の素地」を培っていくことが大切である。

高学年

次第に行為の動機も考慮し、相手の身になって人の心を思いやる共感能力も発達し、自分の役割や責任などについても自覚がより明確になり、責任感、誠実、協力、親切などを重んじるようになる。校内における集団生活のリーダー体験を重ねることで一層強められると考えられる。このような発達の特徴を踏まえて、民主的な社会を維持し、発展させるための資質を養成するべく「福祉実践への積極性」を育てるようすることが大切である。

この福祉および教育の両分野に見られる追求目標は「共に生きる福祉社会の創造」および「その学習と実践を通して人間教育」にあるといえる。このような観点から福祉教育として次の3点を上げる。

①子どもから高齢者および障害者まで、すべての人々が出会いとふれ合い体験を通じて他者の立場や心情を思いやり、互いに支え合う心や態度を養うこと。

②福祉問題を抱えた人たちとの関わりの中で、社会福祉の理念、制度、施策の現状と問題点を学ぶと共に、福祉向上に寄与する実践力を育てること。

③地域社会において、家庭、学校、地域の連携のもと組織的、計画的、継続的に福祉活動を実践し、共に生きる福祉社会の形成主体となるように援助すること。

(3) 福祉教育と道徳教育の関連

「道徳」の内容の中で、福祉の心に直接ふれた項目をあげる。

低学年 〔第一学年および第二学年〕

- 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。 2 - (2)
- 生きることを喜び、生命を大切にすることを心を持つ 3 - (2)

中学年 〔第三学年および第四学年〕

- 相手のことを思いやり、親切にする。 2 - (2)
- 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちを持って接する。 2 - (4)
- 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること。 3 - (2)

高学年 〔第五学年および第六学年〕

- だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 2 - (2)
- 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。 2 - (5)
- 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重すること。 3 - (2)
- 働くことの意義を理解するとともに、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。 4 - (4)

VI 授業実践

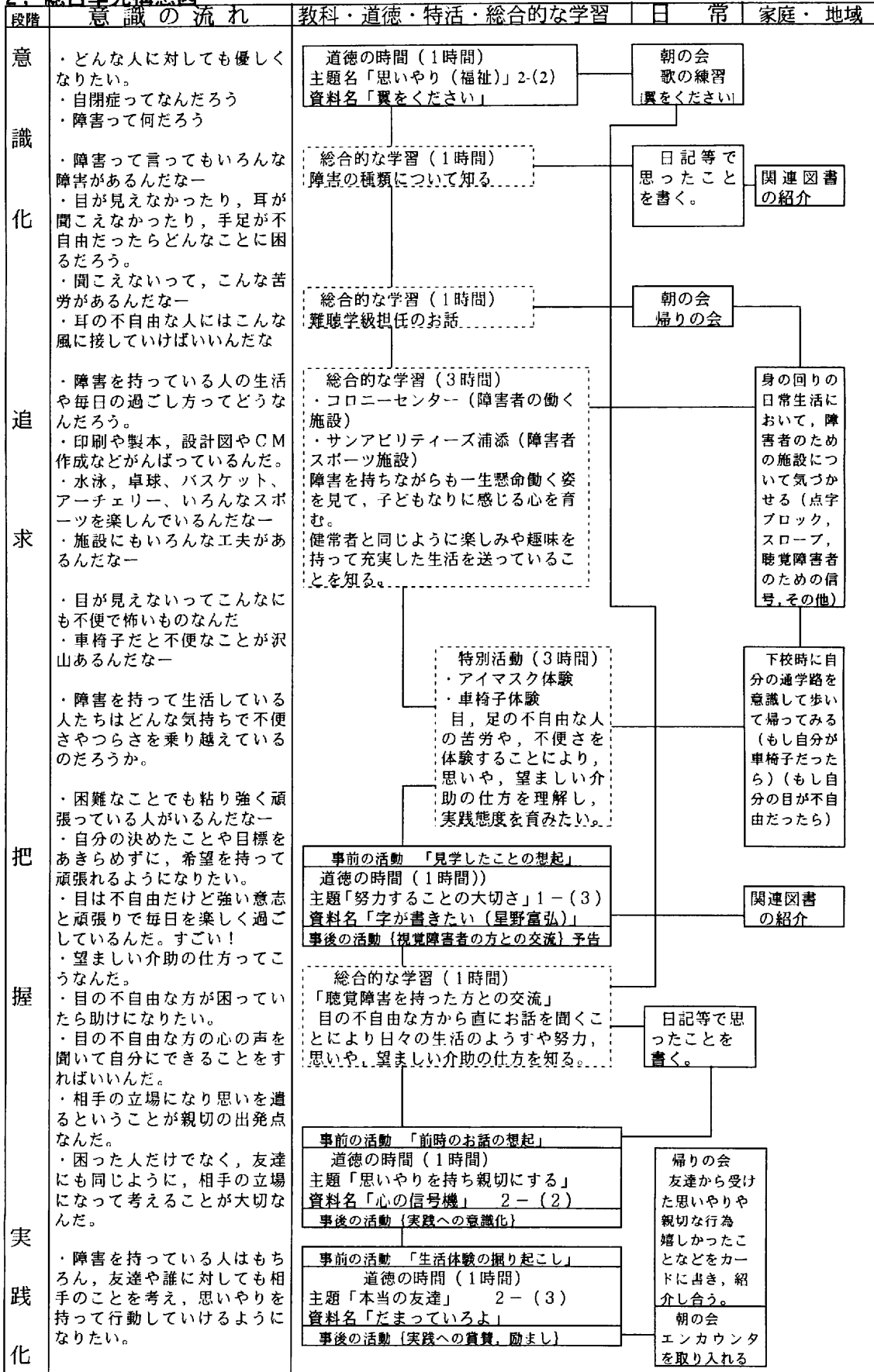
総合単元名 人とのかかわりの中で育まれる思いやりの心

1. 総合単元のねらいと構想についての考え方



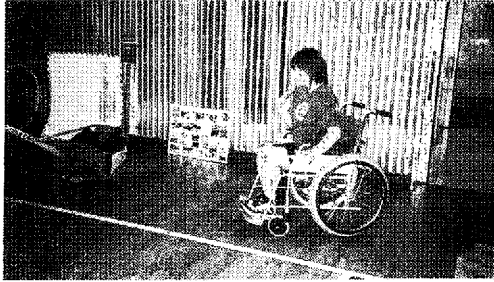


人は他者との関わりなしに心を育むことはできない。いろいろな人と触れ合う中で自分を育て相手を理解し、よりよい生き方に向かっていくものである。

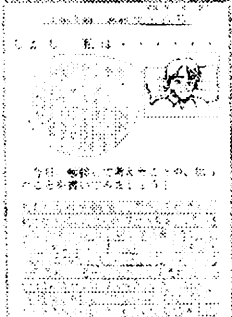



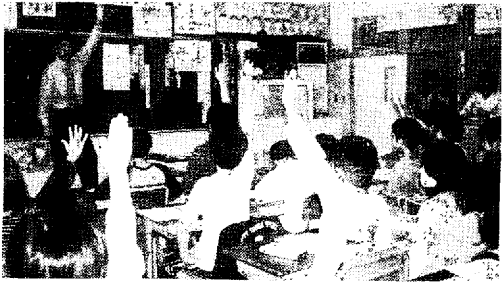
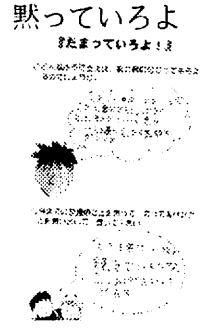
本総合単元は障害を持った人、困っている人や、友人いろいろな立場の人のことを理解し、相手にたいし思いやりの心を持って行動すること、友達同士互いに助け合うことをねらいとしている。そこで、総合的な学習における福祉教育と、道徳の2 - (2)、2 - (3)の主題と関連させて構成したのである。指導の順序はまず、意識化の段階として道徳主題「思いやり」(資料「翼を下さい」)における自閉症の兄を持つ主人公の心の動きと障害について考えさせ、総合的な学習において障害の種類について知り、障害を持った人に対してもっと理解を深めたいという意識を持たせる。追求把握の段階としては障害者の働く施設やスポーツ施設の見学、アイマスク・車椅子体験をし、道徳主題「頑張ることの大切さ」(資料「字が書きたい《星野富弘》」)において障害を持った人の生活や苦勞にふれる。次に、視覚障害者の方のお話を直に聞き、その学習を生かして道徳主題「相手を思いやり親切にする」(資料「心の信号機」)における主人公の行為について話し合う。これを道徳主題「本当の友達」(資料「だまっぺいろよ」)の学習につなぎ、困っている人や友達、誰に対しても相手の気持ちを考えて親切にしたり、助け合ったりすることの大切さを感得する。さらに、実践化の段階では朝の会や帰りの会などで「あなたの良いところ」カードに友達の思いやりのある行いや親切な行いを書き、それらを紹介したりしながら賞賛したり、構成的グループエンカウンターを取り入れて、人との接し方、好ましい声かけ、態度を体験的に実感していけるようにしたい。また、障害があるなしに関係なく、ともに安心して生活ができる地域や社会になることを考えさせていくために総合的な学習の一人一人の追求していく課題につなぎ、深めるようにしていきたい。

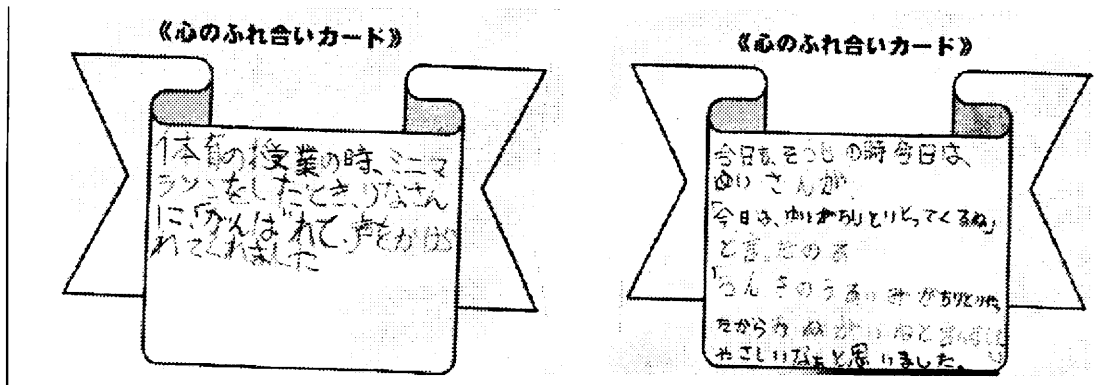
2. 総合単元構想図



3. 総合単元的な道徳学習の単元構想

	教科・領域	題材名・内容	ねらい
1	道徳	翼を下さい	障害のある人とかかわり合うことを通して、思いやり、相手の立場になって行動することの大切さを学ばせる。
2	総合的な学習	障害の種類について	障害についての理解を深める。
3	総合的な学習	難聴学級担任のお話 	専門の知識を持っている先生のお話を聞き、苦労や、正しい接し方を知る。
4	総合的な学習	コロニーセンター サンアビリティーズ浦添見学  	障害を持ちながらも一生懸命働く姿を見て、子どもなりに感じる心を育みたい。健常者と同じように楽しみや趣味を持ち、生活をしていることに気づく
5	特別活動	・ アイマスク体験 ・ 車椅子体験 	・ 目・足の不自由な人の苦労や不便さを体験すると共によりよい介助の仕方をしり、実践していこうとする態度を育てる 

6	道徳	「字が書きたい」(星野 富弘) 	何事においても、困難を乗り越え、努力していくことのすばらしさを知り、自分を見つめ直す。
7	総合的な学習	視覚障害を持った方からの話〔比嘉信子さん〕 	目の不自由な人の生活の様子や、思いを知る。 
8	道徳 〔本時〕	心の信号機 	相手に対する思いやりの心を持ち、親切にしていこうとする心情を高める。 
9	道徳	黙っているよ 	友達のためにどうすることが良いかを考えて行動することの大切さに気づき、いっそう、仲良くしていこうとする心情を高める。
帰りの会などで、友達からうけた思いやりや親切な行為、嬉しかったことを互いに発表し合ったり、掲示したりして賞賛していく。また、朝の会などで、ショートエクササイズを通して人との望ましい接し方・声かけ・態度などを体験的に実感していく。			



4. 本時

道徳学習指導案

平成12年12月21日(木) 3校時

浦添市立 仲西小学校 4年4組

児童33名(男子16名, 女子17名)

指導者 大村 朝彦

(1), 主題名 相手に対する思いやりの心をもち親切にする

(2), 資料名 「心の信号機」

(3), 主題設定の理由

(ねらいとする価値について)

中心とする指導内容は中学年2 - (2)「相手のことを思いやり、親切にする」である。自己を他の人とのかかわりの中で捉え、望ましい人間関係を築くには相手に対する思いやりが大切である。

思いやりとは我が思いを相手に遣ることである。「自分がそうしてもらおうと嬉しい。だから相手も嬉しいだろう。」「自分もそうされると悲しい。だから相手も悲しいに違いない。」と、自分の気持ちをもって相手の気持ちをわかろうとすることである。中学年においてはこの思いやりの心を持って理解するという方向へと導くことを指導の第一のポイントと考える。

次に、「親切にする」という行為について考えると、相手のことを考えずに単純に一人よがり「何かをしてあげれば相手はきっと喜び助かるだろう」ではいけない。親切にするということは上に述べた指導の第一のポイントである「いつも相手の気持ちに思いをはせる」という前提を常に考え行動することだと考える。

(児童の実態)

この時期の児童は自己中心的な考え方がだんだんと薄らいでくるといわれている。自分のことで精一杯だった頃に比べると、他の人の言動も客観的に捉え、また、自分の言動も省みることができるようになりつつある。思いやりについて考えてみると、子ども達の多くが、自分の身近にいる親しい人に対してはその人の気持ちを考えることができるように

なる。しかし、あまり親しくない人や、見知らぬ人だと他人事だと捉えたり、無関心であったりすることがしばしば見受けられる。

思いやりを示す対象が自分の身近な親しい人という実態を踏まえて、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の気持ちや立場を考え、行動することの大切さを考えさせるようにしていきたい。

(資料について)

主人公のぼくは、目の不自由な人が道を渡ろうとしていることに気づき、気がかりに思いながらも助けることができない。しかし、とうとう思い切って言葉をかけ、無事に横断歩道を渡してあげた。初めに、困っている男の人を目にしてもすぐに相手の気持ちや思いを察することができず、見過ごそうとしていた心の弱さに気づかせたい。次に、そのことを反省し、手を引いてあげようと思ったものの、恥ずかしさから戸惑ってしまう主人公の心の葛藤を捉えさせたい。そして、迷いを乗り越え思い切って行動に移したことにより、役に立てた喜びや、満足感に浸っている主人公の心を深く捉えるようにしていきたい。

(4), ねらい

相手のことを考え、思いやりの心を持って親切にしようとする気持ちを高める。

(5), 本時の展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される反応	教 師 の 支 援
導 入	○視覚障害をもった方との授業の様子を振り返る	○比嘉信子さん（視覚障害者）とのがくしゅうで印象に残ったこと ・やればできる ・じっと耳をすまして聞いている	○これまでの学習における目の不自由な人の立場や思いを振り返らせる。
展 開	○資料（心の信号機）を読む 1, 渡りだしてからハッとした時のぼくの心を話し合う。	○横断歩道を渡りだしてから、ぼくは「はっとした」が、この時、心の中でどんなことを考えたでしょうか。 ・あの人を渡らしてあげられるのは今いる僕しかない ・目が見えないのでこのまま放っておいたら心配だ。	○主人公の立場を押さえ共感を高められるよう範読する。 ○気にはなっていたが困っているその人の立場を考えなかった自分に気づき、手を貸そうと考えた主人公の心を捉えさせる。

	<p>2, 男の人の手をとろうと引き返すうちに足がゆっくりになった僕の心を話し合う。</p>	<p>・もし事故にでも遭ったらかわいそうだし, 自分も後悔する。</p> <p>◎青信号になりいざ渡ってみると足がゆっくりになってしまったがこの時、心の中ではどんな考えがあったのでしょうか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(ア) 知らない人だから手を貸すのをやめよう。</p> <p>(イ) 手を貸したいが勇気がない。恥ずかしい。</p> <p>(ウ) 困っている男の人のことを考えると, 手を貸さずにはいられない</p> </div>	<p>○多様な考えを類型化し, 自分はこの中のどの考えに近いかを確かめる。</p> <p>・ワークシートに書かせる</p>
展	<p>3, 男の人の手を取って渡り, 見送ったときの僕の気持ち話し合う</p>	<p>○男の人の手を支えて横断歩道を渡り, お礼を言われた後その人の後ろ姿を見送りながら, 僕はどんなことを思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役に立ててよかった。 ・あんなに喜んでもらえて, 勇気を出してよかった。 ・これからも困っている人に出会ったら親切にしよう。 	<p>○自分の弱さや迷いを乗り越え, 親切な行為を行うことができた満足感を感じ取らせる。</p>
開	<p>○今までの生活を振り返り, 困っている人にあつたときの自分の考え方を見つめる。</p>	<p>○今までの自分のことについて考えてもらいます。今までに親切にしてあげたり, 親切にしてもらったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい時に声をかけてもらった ・道に迷ったとき教えてもらった。 ・転入したときに、「遊ぼうぜー」と、声をかけてもらった。 ・荷物を持つのを手伝った。 ・席を譲った。 ・掃除を手伝った。 ・困っている人の手伝いをした 	<p>○資料から離れ, ねらいとする価値に関わる今までの自分の経験について掘り起こし自分を見つめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にとったアンケートを元に発表させる。 <p>○親切な行為とは、相手を思いやる心から始まるということを押さえる。</p>
	<p>○教師の説話</p>	<p>○比嘉信子さん（視覚障害者）の手記より言葉を抜粋</p>	<p>○教師の思いを話し, 価値に対する印象を深め, 実践意欲を高める。</p>

(6), 評価

相手のことを考え、思いやりの心を持って行動していこうとする心情が高まったか。

※道徳の授業＝道徳的実践力の育成

「よりよい生き方に照らして、これまでの自分を見つめる時間」

「分かっていることを分からせる時間」

「自らの生き方にこだわりを持たせる時間」

「一人一人の豊かな体験を語り合う時間」 (道徳教育連携・推進講座より)

5 授業の考察

(仮説1)、道徳の学習と福祉教育の関連を図った総合単元的な学習を行うことにより道徳の学習がいっそう効果的なものになるであろう。

検証授業の中心場面で、「いざ、歩き出すとぼくの足は「ゆっくり」になった。そのときぼくは、心の中でどんなことを考えたでしょうか。」という問いに対して、

- ・知らない人に声をかけるのははずかしいな。でも、相手は、目の不自由な人だからな。よし、ぼくが手をかそう。
- ・ちょっと心がドキドキしてきたな。よし行こう・・・あっ耳も聞こえなかったらどうしよう。迷っちゃうな。

のような、児童の意見があった。また、検証授業後の感想の中には

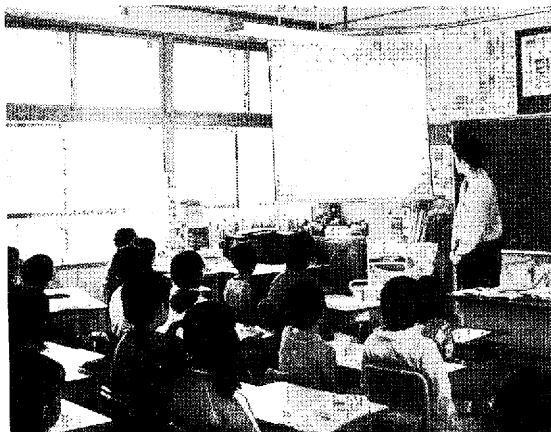
- ・障害についてや、親切についていっぱい知りました。
- ・障害を持っている人や、困っている人がいたら、勇気を持って助けようと思う。また、その後に「ありがとう」と、言われたい。
- ・困っている人、荷物を沢山持っている人、目の不自由な人、車椅子に乗っている人を助けてあげようと思う。
- ・比嘉信子さんの話を聞いて障害者も、普通の人と同じなんだから、これからは緊張せずに声をかけたい。
- ・地球にはいろんな障害を持っている人がいる。耳が聞こえない人、知的に遅れている人、手足が動かない人、目が見えない人、困っていたらぼくは助けてあげます。そうやって、思いやりの心はいろんな人が持っています。人はできると思えば何でもできると思います。

という言葉があった。それらは、前時に行った、障害者施設の見学、アイマスク・車椅子体験、や、聴覚障害を持った方(比嘉信子さん)からのお話などの学習が基になってのそれぞれの意見だと考える。よって、道徳の学習と福祉教育を関連的に行ったことは、児童の道徳的実践意欲につながったのではないかと考える。



〔作業仮説2〕福祉教育における体験活動を道徳の学習に取り入れるなど、授業展開の工夫を図ることにより、道徳的心情が高まるであろう。

授業の導入において、前時に学習したことを想起させ、「感想や」「印象に残っていること」などを、発表させたり、児童の感想をOHPで、提示したことにより、資料「心の信号機」の目の不自由な男の人の立場に立って考えることができたと思う。



比呂信子さんのお話を聞いて、目の不自由な方の生活の様子や、思いを知ろう！

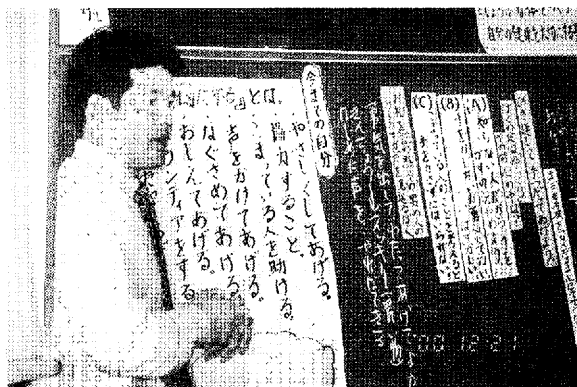
初めて知ったこと、びっくりしたこと、気づいたこと
 信子さんの話、目が見えないうつれどき
 のことが見える様に思えたこと
 何でもひびく耳をしたそれと、さん
 と話している方と聞いていたことに
 気づかされたこと、耳を詰まらして声
 を聞いているからと、さん、と、思
 いました。

お話を聞いて思ったこと
 信子さんの話を聞いて、信子さんは
 先生の言葉から目が悪くなること
 知らないこと、ひびく耳、と、思
 いました。でも今は世界は、ひびくと
 聞ける、聞いて、ひびくと、思
 いました。

次に、展開の後段における価値の自覚（今までの自分の振り返り）の場面においては、事前のアンケートから児童が考える「親切」について、それらをすべて書き出した。

児童が考える「親切」

- ・やさしくしてあげる
- ・協力すること
- ・困っている人を助ける
- ・声をかけてあげる
- ・なぐさめてあげる
- ・教えてあげる
- ・ボランティアをする
- ・手伝ってあげる
- ・嫌だなど人が思うことは、しない



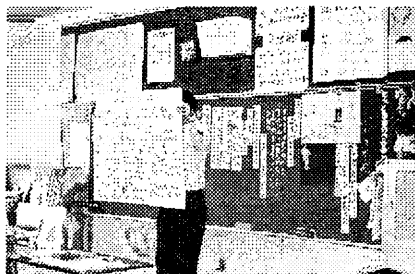
子ども達の、今までの自分の体験を出し合う場面で、明確な視点を持って発表を聞くことができれば、価値意識もより高まるのではないかと考えた。そしてできるだけ多く共感できる体験談を児童に発表してもらおうようにした。

最後に、終末の「教師の説話」の場で比嘉信子さん（視覚障害を持った方）の手記から言葉を抜粋し、それを児童に提示し、解説した。クラスに実際にいらしていただき、障害を乗り越えるまでの苦労や、障害を持った方の思い、生活のようすを直に熱く語ってくださった方の言葉なので、子ども達にとっては印象深く心に残るのではないかと考え取り入れた。

比嘉信子さんの手記より

世の中には子どもがいて大人がいるしお年寄りもいるのです。また、女性がいて男性がいます。そして障害を持っている人、持っていない人、いろいろな人がいます。石垣と人間の社会の違うところは人には言葉があり、その口が時々悪口を言うことです。

「あなたは障害者だからあっちへ行け。」「あなたは勉強ができないから遊ばない」「あなたは・・・だから」と、自分達と少し違うだけで悪口を言う。しかし、この石垣の石は丸い石が三角の石に向かって「おまえは丸くないからあっちへ行け」とは決して言わない。私はものを言わない不揃いの石達から、「350年もの長い間、災害などに耐え抜いてきた強さの秘密を教えられたのです。」



教師の解説（ねらいとする価値への印象づけ）

一つ一つ形が違う石があるように、私たち一人一人も顔や体つき、性格も違う。だからこそ、それを認め合い「思いやりの心」を持って、お互いに接していくことが大切である。ということを、この比嘉信子さんの言葉は、言っているのではないかと考えます。



模造紙に書いたものを児童に提示し、それを基に教師の説話として本時のねらいとする価値を印象づけるよう試みた。

上で述べたような授業展開の工夫を図ることにより、授業後の感想として、次のような言葉があった。

「比嘉信子さんの話を聞いて、障害者も普通の人と同じなんだから、これからは緊張せずに声をかけたい。」

「地球にはいろんな障害を持っている人がいる。目が見えない人・耳が聞こえない人・知的に遅れている人・手足が動かない人。困っていたらぼくは助けてあげます。そうやって思いやりの心はいろんな人が持っています。人はできると思えば何でもできると思います。」

これらの言葉からも、授業展開の工夫を図ることで「相手に思いを遣る」と言うことを感じ取り、道徳的心情の高まりにつながったのではないかと考える。

Ⅶ 研究の成果と課題

「心豊かな子が育つ道徳学習の展開の工夫」をテーマに福祉教育を取り入れて総合単元的に実践してきた。

(成果)

○総合単元的な道徳学習を取り組むことで、他の教育活動との関連がはかれるなか、道徳の内容に継続的にふれることができ、意欲的に学習に取り組み、ねらいとする価値の高まりがみられたと考える。そこには、意識の連続・深化があり、いろいろな面でねらいとする価値、またはその関連的な価値に子ども自身が気づき、認めあうことができたからではないかと考える。

○総合単元的な道徳学習を福祉教育の面から進めることによって、障害を持った方々の苦勞や工夫、知恵、生きる喜びにふれ、自分自身のこれまでの生き方、これからの生き方に、何らかの影響を与えられたことだと思われる。また、生活の中にある障害者のための設備や施設、関連図書などに目を向け、「福祉実践への素地づくり」ができつつあるように思われる。

○道徳の学習に福祉的な体験活動を取り入れるなど、授業展開の工夫をはかることにより、自分の体験と重ね合わせながら、資料や登場人物の行為、ものの見方や考え方、感じ方を追求することができ、また、自分の考えや友達の考えの良さに気づくことができたのではなかと考える。

(課題)

△他様々な視点からの総合単元的な道徳学習の取り組みを考えていきたい。

△道徳の授業における、相互交流の場面や、子どもの思いや、良さをのばすための手だてとその環境づくりをこれからも継続研究していきたい。

△子どもの変容や、心情の高まりを生かす評価の工夫をしていきたい。

終わりに

研究テーマに沿って文献による理論研究を進めていく中、大まかなことは知っていたつもりでも、理論的なことを自分なりにまとめていくことにより、漠然としていたものが整理され、はっきりと見えてきたような気がしました。それを基に検証授業に取り組み、授業実践のまとめとして研究報告書の作成、成果報告会に向けてのプレゼンテーションの作成に取りかかりました。

言いたいことや伝えたいことはたくさんあるのですが、それらを精選し、相手にわかりやすく伝える、ということの難しさ、大切さを身をもって実感することができました。また、入所前まではほとんど触れることのなかったパソコンの操作に関して、親切に指導していただき、ある程度できるようになりました。

それらのことは自分にとって、研修における大きな成果だと考えています。

研究所でこの半年の間に経験したことは全てが自分にとって成果であり、これから教員生活を続けていく上でも、大きな糧になることだと強く感じています。

こういう貴重な研修の間、常に親身になって応援してくださった新城所長・新川先生・与古田先生・研究所の職員の皆様には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。さらに、浦添市教育委員会の先生方、仲西小学校の先生方にも御指導や励ましの言葉を頂き、勇気づけられました。そして、半年間ともに頑張ってきた研究員の先生方にも常に支えてもらい、感謝しております。

この半年間の研修を無事進めていくことができたのも、このように多くの人の支えがあったからだ、ということ胸にしっかりと刻み、四月からの新天地においても、当研究所で学んだことを活かし、頑張りたいと思います。ありがとうございました。

《主な引用・参考文献》

押谷由夫著（1995） 総合単元的道徳
学習論の提唱

石川いつお・竹ノ内一朗著 道徳的実践力を育
（1990） てる道徳の授業

押谷由夫・立石喜男著 思いやりの心を
（19919） 育てる

文部省（1999） 小学校学習指導
要領解説(道徳編)

全国ボランティア 学校における福祉
活動振興センター編 教育ハンドブック
（1996）

九州地区教育研究所連盟 生きる力を育む
部門別担当者研究会 小学校道徳教育
「道徳」部会発表資料 の創造
（1998）

押谷由夫・新宮弘識・上杉賢士編 道徳の授業
（1998） をひらく